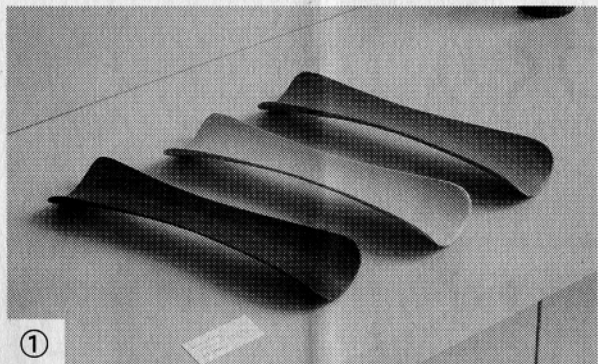


# 旭川家具産地展

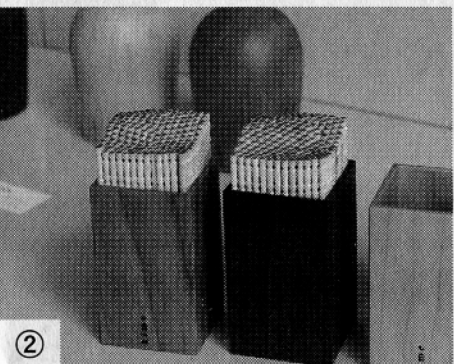
## レポート④



①

評を得たという。代表の得永光利氏に「kime」について話を聞いた。

得永氏は木の持つ「肌理」の魅力を活かし、生活のなかで「手で触れ、眺めて美しく、使いやすい道具」をつくり上げたいと考えていた。昨年の夏に、木工を中心とする「ものづくり」にかかわる人が集まり交流する「旭川木工コミュニティキャンプ」に参加し、小林氏と話しをしたところから、新ブランド。当初から得永氏は「アイテムを用意した。6月のインテリアライフスタイルで発表する」と決めており、1年足らずという短い期間での試行錯誤が始まった。アイテムについては小林氏に商品コンセプトと旭川の技術について説明し、それを活かした小林氏からのアイディアをもとに、絞り込んだという。



②

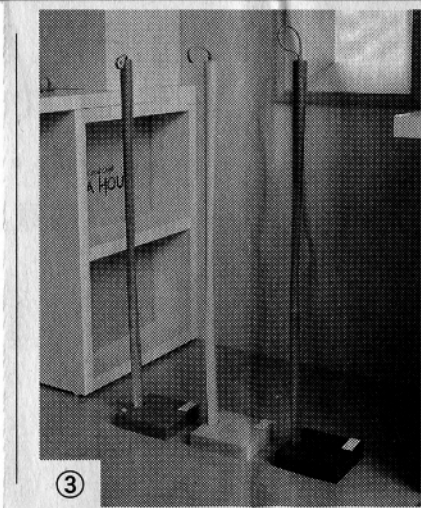
きたのが「靴べら」(写真①)で、フリーハンドの手加工が一番多い製品。できたものに線を入れて修正を繰り返して出来上がった。これ以上でも以下でもない、削りだしの美しさと、手に馴染み靴べらとしてのフィット感にも優れている。「ようじ立て」(写真②)はインテリアライフスタイルでも興味を持つ人が多かった製品。ようじのウエーブのラインが目を引き付けるように、これは2mmの枠に1mmの溝を削ってウエーブの板をはめ込んで仕上げている。この精度を出すのが非常に難しいが、コストも考えてこの収まりになり、強度も十分ある。工程を3カ所に分けて発注している。

「ベース付靴べら」(写真③)で結果的に7回試作を繰り返した。デザイン上の標と立つことを目標に、最初は簡単に考えていたがなかなかまっすぐに立たない。加工時には入らない状態を、仕上げてびたっとなるようにしなければいけない。何mmぶれたらNGか、コマ何mmのクリアランスが必要。仕上げの段階で調整するが、磨く回数が多いと余計に削れてまっすぐに立たない。磨く回数が増やしても、樹種によって削れ具合が違い特にチェリーは難しかったという。

「kime」について

では、「あせらずに来年に向けて少しアイテムを増やしていく。来年の『インテリアライフスタイル展』で発表できれば良い」と考えている。

TEL:0166-15013344



③

株式会社ドリーミーパーソン

は持たずに、旭川にいる木工職人達のそれぞれの得意技術を活かしながら、最終的に製品として組み上げ、主として小物やクラフト製品を販売している。今年6月に東京で開催された「インテリアライフスタイル」では、小林幹也氏のデザインによる木製小物のブランド「kime」を発表し、バイヤーからも好

# 家具新聞

2010年 9月15日(水曜日)第1568号  
(平成22年)